# 8月の園だより

**社会福祉法人　であいの里　さやま保育園**
**2023年　8月1日**

**＊保育目標　反省　すみません＊**
**・「ごめんなさい」「ありがとう」が、素直にいえる。**
**・夏の遊びを積極的に取り組み、楽しさを発見する。**

【法話】

## 「　お盆　」

今年は、山口県含む九州北部の梅雨明けが最後となりました。今までに増して、本格的な夏となり、特に35℃越えの猛暑日が多くなるようです。熱中症の危険が高いため、水分・塩分補給、適度なクーラーの利用、休養栄養をしっかりとるなどの体調管理等、熱中症対策をして、あと一月の夏を乗り越えてくださいますようお願いします。

日本の夏には、昔から全国的に「お盆」があります。各地で色々な風習・伝統行事がありますが、本来の「お盆」は、インドの「ウランバーナ」という言葉が、漢字の「盂蘭盆（うらぼん）」にあてはめられ、短く略されたもので、意訳すると「解倒懸（げとうけん）」という意味です。「倒懸」とは、さかさまにつるされることで、大変苦しい状態です。その苦しみから解かれ救われるのが、「解倒懸」です。お釈迦さまの十大弟子のお一人である目蓮尊者（もくれんそんじゃ）、そのお母さんが、仏法によって、餓鬼道（がきどう）の苦しみから救われたという話に基づいています。「倒懸」の状態にあるのは、この私です。さかさまをさかさまと知らず、苦しみを苦しみと知らない私に、迷いを迷いと教え示してくれるのが、お盆の行事です。

「お盆に先祖の霊が帰ってくる」というような俗信迷信に振り回されず、お盆には、先祖も私も共に、「倒懸（さかさま）」の苦しみ迷いから救われていく、仏教・お念仏の教えを、感謝の気持ちのなかで、聞かせていただきましょう。

合　掌

## 今月の行事予定はパピーナに引っ越しました

## 「こどもまん中社会の実現にむけて」

すべてのこどもが誰一人取り残されることなく、健やかに成長し、社会で自立していくために、今年度より、こども家庭庁が設置されました。すべての大人がまず、

『子どもを一人の人間として信頼しましょう』

『必ず子どもの意見を聞いて進めましょう』

ということであります。

保育園でも今一度、子どもへの関わり方を学び直しているところです。「子どもの人権に関するリーフレット」をお配りいたしましたので、一緒に学んでいきましょう。

子どもを信頼し、子どもの意見を聞くということは、とても大切であることはわかるのですが、実際には、大人にとって面倒なこと・煩わしいこと、聞かなくても想像できると思いがちです。しかしながら、だからこそ、本当の思いを聞いてみなさいということなのです。子どもの声に耳を傾けてみれば、思いがけない気づきに出会うことがあります。素晴らしい成長がみられることもあります。

先日の参観日、Ｈくんは弟の急な発熱で、母親が帰らなければならなくなりました。「ママと一緒に帰るか」、「残って先生と続きをするか」、Ｈくんに選択を任せました。すると、弟の事をまず心配して頭に手を当てて熱を確認し、「この続きは家に持って帰ってするね。」と、言いにきました。お家の方も、「Ｈくんすごいね、自分のことより弟のことを考えられるようになったのね」と、褒めてくださり、Ｈくんは、自慢げに帰って行きました。

また、ある日、Ｅちゃんは薬が嫌で担任のＡ先生にしがみついています。「Ａ先生が抱っこ？」「Ｍ先生が薬？」「Ｍ先生が抱っこ？」「Ａ先生が薬？「やめる？」の選択肢の中で、自分で決断し、涙をこらえて薬を飲むことができました。大人にとっては小さな出来事でも、子どもにとっては、大きな苦痛を伴い、乗り越える事ができれば、大きな成功体験となり、自己肯定感が生まれます。

一人ひとりの個性を持つ子どもたちは、それぞれのタイミングで一人の人間として、自分で自分の可能性を伸ばそうとして成長しています。そのためには、大人の、指示や命令や禁止は要りませんが、大人の的確な信頼や適切な応援や温かなまなざしが必要であると思われます。「子どもたちの人生は子どもたち自身のものであり、乳幼児期の育ちの上にその子の人生が展開されていくことを、大人はしっかりと受け止めてほしいと思っています。」（リーフレットより）